

令和4年度 北九州観光コンベンション協会 事業計画

【ビジョン・事業運営方針】

「都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献し、国内外から選ばれるまちを目指す」をビジョンに掲げ、当協会の役割である

- 国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進
 - 西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致・支援
- を果たすため、次の活動方針に基づき、各事業を展開する。

8つの活動方針

1. 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化 公1

- ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など

2. 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動 公1

- ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など

3. にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進 公1、収1

- ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理によるにぎわい事業の実施と、利用者の新規開拓、など

4. 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供 公1、収1

- ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、など

5. 情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進 公2、収2

- ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など

6. 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成 公2、収2

- ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など

7. 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築 全

- ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など

8. 持続可能な施設運営に向けた環境経営 全

- ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【令和4年度の主な事業目標（指定管理計画（R元～R5年度）の4年度目標）】

- 来場者数（展示場本館・新館、会議場の3施設合計） ⇒ 96万人以上
- コンベンション誘致件数（九州規模以上） ⇒ 250件以上
- 施設稼働率 ⇒ 展示場本館 70%以上、新館 80%以上、会議場 90%以上

【目標達成に向けた令和4年度の事業活動】

取組1. 主催展示会事業の強化（公1：見本市・展示会事業） 〈139,107千円〉

新型コロナウイルス感染症の影響が変化する中で、
 (1) コロナ禍の出口を見越したハイブリッド型展示会の展開
 (2) 展示会開発に向けた開催業務の効率化と人材育成の促進
 を柱に、主催展示会事業の強化に取り組む。

(1) コロナ禍の出口を見越したハイブリッド型展示会の展開

コロナ禍における展示会開催実績で得た経験知をもとに、主催する7事業で万全の感染対策を講じ、コロナ後の地域課題に向けた新たな取り組みを行う。

告知や集客などについてはオンラインを活用し、商談などにおいては、対面の強みに重点を置いた、リアル重視のハイブリッド型展示会の実施を目指す。

また、生産性の向上やDXの導入、さらには脱炭素などそれぞれに共通するテーマに対して、ESG（Environment・Social・Governance）経営を導入するためのセミナーをネットとリアルで多面的に開催し、新たなビジネスマッチングの場を提供する。

《令和4年度開催の事業》

	事業名	開催期日	入場目標	出展目標
課題解決EXPO	西日本製造技術イノベーション2022	7月6日 ～7月8日	10,000人	70社・団体
	第48回ふくおか産業技術振興展			20社・団体
	エコテクノ2022 ～地球環境ソリューション展～			60社・団体
	エコテクノ2022 ～エネルギー先端技術展～			40社・団体
	エコ・ベンチャー・メッセ2022			20社・団体
	中小企業テクノフェア in 九州2022			60社・団体
	第44回西日本陶磁器フェスタ	9月15日～19日	35,000人	200社
	合計	7事業	45,000人	470社・団体

《主な企画内容》

■ 『課題解決EXPO』

西日本製造技術イノベーション	「ロボット」「自動車産業」「航空機宇宙産業」に「DX」を加え地域企業の事業活性化を支援する。
エコテクノ (地球環境ソリューション展)	サーキュラーエコノミー、DXを活用したリサイクル・廃棄物処理の高効率化・省力化、サプライチェーンの脱炭素化などの技術を紹介。
エコテクノ (エネルギー先端技術展)	洋上風力発電や水素エネルギー、次世代自動車のほか、エネルギーマネジメントシステム、地域マイクログリッド、蓄電池システムなど、カーボンニュートラルに直結したテーマで先進的製品を紹介。
中小企業テクノフェア in 九州	「展示会活用型ビジネスマッチング」に取り組むことで、初出展、販路開拓をサポート、技術交流・商談を促進する。

■ 『西日本陶磁器フェスタ』

芸術（西日本陶芸作家展）・文化（生け花&茶器）の視点での様々な企画を展開する。
また、ウィズコロナの時代に対応し、SNSを活用したPRや集客を行うとともに、ホームページで出展窯元の紹介・作品PRなどを行い、各窯元の販売支援に取り組む。

《ビジネスマッチングの開催》

地元企業の受注確保や新規取引先の開拓支援のため、行政関連団体、金融機関などの協力によりビジネスマッチングを開催する。

- 出展社が専門講師から展示会会期中の商談やプレゼンテーションの訴求スキルを学ぶ、提案スキルアップ研修を実施する。
- マーケティングオートメーションを活用して、個別にメールで情報提供し、来場予定者に関心を高めて来場してもらうことにより、出展社とのビジネスマッチングを促進する。

《国際ビジネスの推進》

韓国釜山広域市BEXCOとのMOUに基づき、オンライン展の利用状況やバーチャル商談会の成果などの意見交換を行う。また、感染収束後に、相互連携によるアジア各国への勧誘活動や、相互交流出展を行う。

(2) 展示会の新規開発に向けた開催業務の効率化と人材育成の促進

■ 「Fair in fair型」の小規模展示会の開催

民間企業や大学などとの連携により、「DX」や「物流」「地方創生」など地域企業や行政ニーズの中から地域経済情勢を踏まえたテーマを検討するとともに、「Fair in fair型」の小規模展示会を立ち上げ、需要を見定めた、新たな展示会開発に取り組む。

■ 展示会運営の効率化

装飾・電気工事のプロポーザル制度の課題に基づいた見直しや、発熱感知や消毒管理等のコロナ対応で複雑化した、展示会の運営業務の外部委託などに取り組むことで、展示会運営の効率化を図る。

■ 展示会人材の育成

展示会の国際標準規格やコロナ後に対応したオンライン展示会開催手法等、新たな展示会開催手法を修得するための人材育成プログラムへの参加等を検討する。

取組2. MICE誘致の強化（公1：会議・大会等）

〈80,696千円〉

日本政府観光局（JNTO）発表の「2019年国際会議開催件数（※）」で北九州市は3年連続で過去最高タイの全国8位となった。新型コロナウイルス感染症の影響も継続しているが、国際および全国規模の会議について、ハイブリッド形式や現地開催等に対応した臨機応変な誘致営業を行う。（※）2020年はコロナで順位発表なし

- (1) グローバルレベルの誘致強化
- (2) 誘致営業活動についての取り組み
- (3) ステークホルダーとの連携
- (4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

(1) グローバルレベルの誘致強化

JNTO等からの情報収集に努め、国内外の見本市・商談会に積極的に参加し、主催者等に北九州でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また、国際会議協会（ICCA）を通じて、SDGs情報を掲載した提案書を活用するなどし、北九州開催に適した会議の情報収集を行う。また、海外のキーパーソンへの営業を進め、グローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、SNSの活用による誘致情報の発信、プランナーズガイドやホームページの更新など、PRツールの充実を図る。

(2) 誘致営業活動についての取り組み

国際MICEエキスポ（IME2023）への出展や、北九州市MICE倶楽部首都圏交流会の開催などにより、商談への参加やキーパーソン等とのネットワークの継続・拡大を図る。首都圏の営業については北九州市東京事務所との連携を強化し、定期的なオンラインによる情報交換を行う。また、MICE開催助成金の効果的活用、スポーツ関係の誘致等にも取り組む。

(3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有やオンラインを含めた海外への誘致セールス、開催支援活動に取り組む。

また、JNTOとの連携により国際会議を誘致した実績を活かし、JNTOとの連携を強化して誘致活動を推進するとともに、情報収集や北九州市の情報発信を図る。

(4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、ユニークベニューの活用、観光資源を活用したアクティビティコンテンツの提案、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、新型コロナウイルス感染症対策費用への一部支援など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

取組3. 貸館利用者の誘致・営業の強化（公1：施設の管理運営）〈11,300千円〉

新型コロナウイルス感染症により減少した貸館利用の回復を目指し、
(1) リピーターの利用再開と過去利用者の掘り起こしへの取り組み
(2) 新規利用者の開拓
(3) 新しい会場利用価値の創造へ向けた取り組み
(4) エンターテイメント分野の誘致
を柱に、誘致営業に取り組む。

(1) リピーターの利用再開と過去利用者の掘り起こしへの取り組み

リピーターの利用再開に向け、使用する日程や会場について、コミュニケーションを密にし、希望に合致した確実な提案を行うことで、会場利用の再開に取り組む。

また、年間複数回利用や特定期間での集中開催がある「自動車」「建材・電設資材」「食品」「就職・転職」業界等については、利用日程の年間提案や重複・連続開催を避けた調整を行うことにより安定的・効率的な会場稼働を目指す。

(2) 新規利用者の開拓

展示会以外の新たな分野の利用開拓を進め、利用形態の多様化を図る。特にコロナ禍で使用実績のあった資格試験や入学試験等の分野について、新規開拓に注力する。また、新規利用者による会議室の利用促進の取り組みとして、受付専用ホームページを作成するなど、効果測定ができる仕組みを取り入れ利用促進に取り組む。

(3) 新しい会場利用価値の創造へ向けた取り組み

コロナ禍で需要が高まった、WEBを利用したイベントのライブ配信や商談・面談などについて、回線の新設・既存回線の増強を行い、より良いWEB環境の提供に取り組むことで、会場利用者へ新たな価値や成果を提供するサービスの創造に取り組む。

(4) エンターテイメント分野の誘致

全国を巡回するスマートフォンのゲームや本格的なeスポーツの大会、アイドルや声優関連のコンサート等の趣味性の高いエンターテイメント分野のイベントを誘致することで、会場利用の促進と来場者の増加を図る。

また、これらの誘致を促進するため、イベント主催者となるテレビ局や新聞社、プロモーターとの連携強化を図る。

取組4. 広報・宣伝、地域連携（公1・収1：施設の管理運営）〈9,848千円〉

(1) 広報・宣伝

ホームページに加え、情報誌の発行、小倉駅JAMビジョンやデジタルサイネージによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示など、開催告知・集客対策を中心とした会場利用者の支援につながる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献するため、ミクニワールドスタジアム北九州などと連携したイベントを検討するとともに、小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、来訪者向けの情報発信や地域の交流活動を通じた地域活性化に取り組む。

また、魚町商店街に当協会の主催事業や誘致イベントの大型懸垂幕を掲出するなどして小倉駅南北の往来を活性化させる。

取組5. お客様満足度の向上（公1・収1：施設の管理・運営）〈645,954千円〉

(1) サービスの向上

アンケートやヒアリング等で寄せられた意見について協会内で検討し、改善・対応策をホームページで公開することで利用者との信頼関係を構築する。

また、オンライン・ハイブリッド会議に必要な設備・備品の整備など、ウィズコロナに対応した施設サービスの提供に努める。

(2) 職員の資質・能力の向上

個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等を意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、サービスの質の向上を目指す。また、QC活動を通じて、日々の業務の見直しや職員間の意見交換、あるいは情報共有の意識を高め、組織全体のレベルアップを図る。

(3) 災害による被害の甚大化に対応する防災体制の検討

近年、自然災害による被害の甚大化が進んでおり、施設管理や災害時の危機管理が重要となっていることから、予防保全や危機管理体制の整備に努める。災害発生に備えて緊急時対応や連絡体制を構築し、利用者の安全、安心の確保に全力を尽くす。

(4) 施設・設備の改修等

LED等の高効率設備の導入や機器の更新による省エネ化を進める。

また、建物の壁面改修などの美観回復工事やオンライン会議への対応、感染症対策となる改修などに順次取り組むとともに、机・椅子等の備品類のメンテナンスに取り組む。

(5) 展示場本館の対応等

雨漏れの防止対策をはじめ、中展示場・小展示場の空調システムの更新や国際会議場の調光基盤の改修を検討し、美観回復と機能保全を行い、利用促進につながる改修を進める。また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

取組 6. 観光客の誘致及び滞在化促進（公2：観光事業の振興）〈15,680千円〉

（1）観光客誘致事業・滞在化促進事業

マイクロツーリズムなど、ウィズコロナに対応できる受け入れ態勢を構築するとともに、国や北九州市の経済対策メニューと連携した事業を展開する。

東アジアを中心とした海外に向けては、新型コロナウイルス感染症の収束後（アフターコロナ）を見据えて、JNTOや九州観光推進機構などが主催する海外の旅行社へのオンライン商談会などを活用した、きめ細かな情報発信、セールスを継続的に実施する。

国内に向けては、ターゲットを絞った観光キャンペーンや旅行社へのセールス活動を行う。特に、「夜景」や「名月」などの夜型観光資源を活用したオリジナルの夜景巡りツアーの定着化を促進し、滞在化促進を目指す。また、本年11月、本市で開催される全国産業観光フォーラムにおいて「ものづくりの街」としての北九州市を全国へPRすることで、認知度の向上を図る。

（2）修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、東田地区にオープンする「スペースLABO」、「KGG（KITAKYUSHU GLOBAL GATEWAY）」、小倉地区の「北九州市平和まちミュージアム」といった主な観光施設と連携させる仕組みづくりを行い、旅行社へのセールスを実施する。

（3）助成事業

国や北九州市の経済対策メニューと連携した助成金事業を実施し、北九州市への旅行商品の企画を促進する。

取組 7. 観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査（公2）〈3,589千円〉

北九州市の観光情報やイベント・コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光イベントだより」の発行や北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、その結果をウィズコロナ・アフターコロナの観光客のニーズに合致する観光素材の開発やPR活動の強化に活かす。

取組 8. 観光に関する人材の育成及び啓発（公2：観光事業の振興）〈2,973千円〉

観光客の受け入れ体制の充実を図るとともに、アフターコロナの観光促進を図るため先進的取り組みを行う事業者のおもてなし活動について、Facebook等での情報発信を行う。あわせて、観光業務従事者を対象にアフターコロナにおけるおもてなしや観光

戦略についてのセミナーを実施する。また、観光ボランティアについてもウィズコロナ・アフターコロナに対応できる体制を構築する。

取組 9. 観光に関する施設の管理・運営（公2・収2：観光事業の振興）〈100,280千円〉

（1）観光案内所等の運営

北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会が組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、小倉駅、門司港駅、北九州空港の市内3ヶ所にある観光案内所に加え、4月に東田地区にオープンする「ジ・アウトレット北九州」内にも観光情報コーナーを設置し、官民一体となったサービスの強化を図る。特に、今年度にリニューアルオープンした小倉駅の北九州市総合観光案内所では、外貨両替機・モバイルバッテリーレンタルの導入、また手荷物預かりの拡充など利用客のニーズに合わせた新たなサービスの向上に引き続き取り組む。

（2）土産品・特産品売店の運営

門司港レトロ地区の「北九州おみやげ館」の運営と、TOTOミュージアムの売店の運営受託を行う。SNS等でキャンペーン情報の発信を行なうなどのPRを重点的に行い、新商品や話題の商品等を考慮した品揃えの充実とキャッシュレスでの支払方法をより強化することで収益増を図る。

（3）小倉駅イベント広場等の運営

JR小倉駅3階JAMビジョンの全面リニューアルを行ない、新規顧客の獲得とさらなる増収に取り組む。また、JAM広場においては、「ぐるリッチ！北Q州」と連動した観光情報を発信し、Instagram等のSNSとあわせ、新たな放映コンテンツ等を導入し、新規顧客の開拓を図る。

取組 10. 特産品の紹介・宣伝（公2：観光事業の振興）〈14,656千円〉

北九州市の特産品紹介のパンフレットの作成・配布を行う。また、ホームページで特産品を紹介し、通販サイトで購入できるシステムの管理運営と、市内外で開催されるイベントや観光物産展への参加により、購入機会の提供を行う。

通販サイトでは、商品構成を随時見直し、よりニーズの高いラインナップを取りそろえるとともに、話題性の高い商品の発掘など、魅力あるサイト運営に努める。

また、MICE事業との連携として、北九州国際会議場Sea Loungeへの特産品の常設展示、小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場における臨時売店の出店を行う。